

## 令和4年度 長崎大学2次試験前期日程 (数学問題)

令和4年2月25日

- 教育A・経済・水産・環境科学部 ① ② 数I・II・A・B (80分)
- 教育B・薬学・歯学・工学部 ② ③ ④ ⑤ 数I・II・III・A・B (120分)
- 医学部 ② ③ ⑥ ⑦ 数I・II・III・A・B (120分)
- 情報データ科学部 ② ③ ④ 必答, ⑤ ⑧ の2題から1題選択  
数I・II・III・A・B (120分)

① 以下はそれぞれ個別の問題である。各問いに答えよ。

(1) 点  $P(x, y)$  が次の連立不等式

$$x + 2y \leq 6, \quad 3x + y \leq 9, \quad x \geq 0, \quad y \geq 0$$

の表す領域を動くとき、 $2x + y$  の最大値、およびそのときの  $P$  の座標を求めよ。

(2)  $0 \leq \theta < \pi$  のとき、次の不等式を満たす  $\theta$  の値の範囲を求めよ。

$$\cos 2\theta + \sqrt{3} \sin 2\theta \geq 1$$

(3) 以下で定義される数列  $\{a_n\}$  がある。

$$a_1 = 2, \quad a_{n+1} = 2a_n - 1 \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

このとき、一般項  $a_n$  および  $\sum_{k=1}^n 2ka_k$  を、それぞれ求めよ。

(4) 母線の長さが1、高さが  $h$  の円錐がある。この円錐の体積を  $V(h)$  とするとき、 $V(h)$  の最大値、およびそのときの  $h$  の値を求めよ。

**2** 空間内の4点  $O(0, 0, 0)$ ,  $A(1, 2, 3)$ ,  $B(1, 1, -1)$ ,  $C(7, 3, 5)$  がある. 直線  $OA$  上の動点  $P$  に対して, 線分  $BP$ ,  $CP$  の長さの平方の和  $BP^2 + CP^2$  の最小値と, 線分の長さの和  $BP + CP$  の最小値を求めたい. 以下の問いに答えよ.

- (1)  $\overrightarrow{OP} = t\overrightarrow{OA}$  ( $t$  は実数) とするとき,  $BP^2 + CP^2$  を  $t$  の式で表せ.
- (2)  $BP^2 + CP^2$  の最小値と, そのときの  $P$  の座標を求めよ.
- (3) 2点  $B, C$  から直線  $OA$  に垂線を下ろし, 交点をそれぞれ  $H, K$  とするとき,  $H, K$  の座標を求めよ. また, 2つのベクトル  $\overrightarrow{HB}, \overrightarrow{KC}$  のなす角を  $\theta$  ( $0 \leq \theta \leq \pi$ ) とするとき,  $\cos \theta$  の値を求めよ.
- (4)  $BP + CP$  の値が最小となるのは,  $P$  が線分  $HK$  をどのような比に分けるときかを説明せよ. また, そのときの  $P$  の座標, および  $BP + CP$  の値を求めよ.

**3** 以下はそれぞれ個別の問題である. 各問いに答えよ.

- (1)  $a > 0$  とする.  $a + a^{-1} = 18$  のとき,  $a^{\frac{1}{2}} + a^{-\frac{1}{2}}$  および  $a^{\frac{1}{3}} + a^{-\frac{1}{3}}$  の値をそれぞれ求めよ.

- (2) 次の方程式

$$\log_{\frac{1}{3}}(9x^2) \cdot \log_3 \left( \frac{x}{81} \right) = -12$$

を解け.

- (3)  $0 \leq \theta < 2\pi$  のとき, 次の不等式を満たす  $\theta$  の値の範囲を求めよ.

$$\cos 2\theta + \sqrt{3} \sin 2\theta \geq 1$$

- (4) 次の方程式

$$z^4 = -8 - 8\sqrt{3}i$$

を解け. ただし,  $i$  は虚数単位である.

4 自然数  $n$  に対して、以下で定義される  $x$  の 2 次関数  $f_n(x)$  がある。

$$f_1(x) = 3x^2$$

$$f_2(x) = 3x^2 + 4x$$

⋮

$$f_{n+2}(x) = 3x^2 + 4x \int_0^1 f_{n+1}(t) dt - \int_0^1 f_n(t) dt \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

$a_n = \int_0^1 f_n(t) dt$  とおくとき、以下の問いに答えよ。

- (1)  $a_1, a_2$  の値を、それぞれ求めよ。
- (2)  $a_{n+2}$  を、 $a_{n+1}$  と  $a_n$  を用いて表せ。
- (3)  $b_n = a_{n+1} - a_n$  とする。  $b_n$  と  $a_n$  を、それぞれ  $n$  の式で表し、2 次関数  $f_n(x)$  を求めよ。
- (4)  $x = \alpha$  で、 $f_{n+1}(x) - f_n(x)$  は、すべての自然数  $n$  に対して一定の値  $\beta$  をとる。このとき、 $\alpha$  と  $\beta$  の値を求めよ。また、2 つの曲線  $y = f_n(x)$  と  $y = f_{n+1}(x)$ 、および直線  $x = \alpha$  で囲まれる図形の面積  $S_n$  を求めよ。

5 曲線  $C: y = e^x$  上の点  $P(t, e^t)$  における接線を  $l$  とする。ただし、 $0 < t < 1$  である。以下の問いに答えよ。

- (1)  $l$  の方程式を求めよ。また、 $l$  と  $y$  軸との交点を  $Q$  とし、 $l$  と  $x$  軸との交点を  $R$  とする。このとき、2 点  $Q, R$  の座標を、それぞれ求めよ。
- (2) 不定積分  $\int \log x dx$  および  $\int (\log x)^2 dx$  を、それぞれ求めよ。
- (3)  $l$  と  $x$  軸および  $y$  軸で囲まれた図形を  $D_1$  とし、これを  $y$  軸の周りに 1 回転してできる回転体の体積を  $V_1(t)$  とする。同様に、 $C$  と  $l$  および  $y$  軸で囲まれた図形を  $D_2$  とし、これを  $y$  軸の周りに 1 回転してできる回転体の体積を  $V_2(t)$  とする。このとき、 $V_1(t)$  と  $V_2(t)$  を、それぞれ  $t$  を用いて表せ。
- (4)  $V(t) = V_1(t) + V_2(t)$  とするとき、 $V(t)$  の最小値、およびそのときの  $t$  の値を求めよ。

6 原点を  $O$  とする  $xy$  座標平面上に、楕円  $C: \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$  ( $a > b > 0$ ) と、 $C$  上を動く点  $P(a \cos \alpha, b \sin \alpha)$  ( $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$ ) がある。以下の問いに答えよ。

- (1)  $C$  の方程式の両辺を  $x$  で微分し、 $P$  における  $C$  の接線の傾きを求めよ。また、この接線の方程式は  $\frac{\cos \alpha}{a}x + \frac{\sin \alpha}{b}y = 1$  であることを示せ。
- (2)  $P$  における  $C$  の接線と  $x$  軸および  $y$  軸とで囲まれる三角形の面積  $S$  の最小値を求めよ。また、このときの  $P$  を点  $Q$  とし、 $Q$  における  $C$  の接線を  $l$  とする。  $Q$  の座標および  $l$  の方程式を、 $a, b$  を用いて表せ。
- (3)  $C$  上の点  $R(a \cos \beta, b \sin \beta)$  ( $\frac{\pi}{2} < \beta < \pi$ ) における接線  $m$  が、(2) で求めた  $l$  と垂直に交わるものとし、その交点を  $A$  とする。このとき、 $\tan \beta$  の値および  $R$  の座標を、 $a, b$  を用いて表せ。
- (4) (2) と (3) における  $Q, R, A$  について、線分  $OQ, OR, OA$  の長さの平方  $OQ^2, OR^2, OA^2$  をそれぞれ  $a, b$  を用いて表し、線分  $OQ, OR, OA$  の長さの大小を比較せよ。

7 自然数  $n$  に対して、 $I_n = \int_1^e (\log x)^n dx$  とする。ただし、 $e$  は自然対数の底であり、無理数である。以下の問いに答えよ。

- (1)  $I_1, I_2$  の値を、それぞれ求めよ。また、 $I_{n+1}$  を  $I_n$  を用いて表せ。
- (2)  $a$  および  $b$  を有理数とする。  $a + be = 0$  ならば  $a = 0$  かつ  $b = 0$  であることを、背理法を用いて証明せよ。
- (3) すべての  $n$  に対して、 $I_n = A_n + B_n e$  ( $A_n, B_n$  は有理数) と表すことができる。このことを数学的帰納法を用いて証明せよ。
- (4) (3) における  $A_n$  に対して、 $C_n = \frac{A_n}{(-1)^{n+1}n!}$  とする。このとき、 $C_n$  および  $A_n$  を、それぞれ  $n$  を用いて表せ。
- (5) (3) における  $B_n$  は  $B_n = 1 + \sum_{i=1}^n (-1)^i {}_n P_i$  であることを数学的帰納法を用いて証明し、 $I_5$  の値を求めよ。  
ただし、 ${}_n P_r = \frac{n!}{(n-r)!}$  ( $r$  は  $r \leq n$  の自然数) であり、 $0! = 1$  とする。

- 8 動点  $P$  は数直線上の座標  $1$  あるいは  $-1$  にある. 表が出る確率  $p$  ( $0 < p < 1$ ), 裏が出る確率  $1 - p$  のコインを投げ, その結果により  $P$  に以下のような操作を行う.

操作

- 表が出たとき,  $P$  が  $1$  にあれば  $-1$  に,  $-1$  にあれば  $1$  に移動させる.
- 裏が出たとき,  $P$  は動かさない.

コインを  $n$  回投げたときの  $P$  の座標を  $X_n$  とし,  $X_n = 1$  となる確率を  $q_n$  とする. 最初に  $P$  は  $1$  にあるものとして, 以下の問いに答えよ.

- (1)  $q_1, q_2, q_3$  を, それぞれ  $p$  を用いて表せ.
- (2)  $q_{n+1}$  を  $p$  と  $q_n$  を用いて表せ.
- (3)  $q_n$  を  $p$  と  $n$  を用いて表せ.
- (4) 確率変数  $X_n$  の平均  $E(X_n)$ , 分散  $V(X_n)$ , 標準偏差  $\sigma(X_n)$  を, それぞれ  $p$  と  $n$  を用いて表せ.

## 解答例

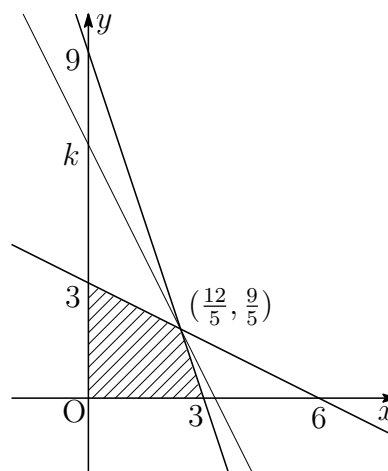
1 (1) 連立不等式

$$x + 2y \leq 6, \quad 3x + y \leq 9, \quad x \geq 0, \quad y \geq 0$$

の表す領域は、右図の境界を含む斜線部分。  
境界線  $x + 2y = 6$ ,  $3x + y = 9$  の交点は

$$\left(\frac{12}{5}, \frac{9}{5}\right)$$

$2x + y = k$  とおくと、直線  $y = -2x + k$  が  
この領域を通るとき、 $k$  が最大となるのは、  
上の交点を通るときである。



したがって  $P\left(\frac{12}{5}, \frac{9}{5}\right)$  で、 $k$  は最大値  $\frac{33}{5}$  をとる。

(2) 不等式  $\cos 2\theta + \sqrt{3}\sin 2\theta \geq 1$  ( $0 \leq \theta < \pi$ ) より

$$\sin\left(2\theta + \frac{\pi}{6}\right) \geq \frac{1}{2}, \quad \frac{\pi}{6} \leq 2\theta + \frac{\pi}{6} < 2\pi + \frac{\pi}{6}$$

したがって  $\frac{\pi}{6} \leq 2\theta + \frac{\pi}{6} \leq \frac{5\pi}{6}$  よって  $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{3}$

(3)  $a_1 = 2$ ,  $a_{n+1} = 2a_n - 1$  より  $a_{n+1} - 1 = 2(a_n - 1)$

$\{a_n - 1\}$  は初項  $a_1 - 1 = 1$ , 公比 2 の等比数列であるから

$$a_n - 1 = 1 \cdot 2^{n-1} \quad \text{ゆえに} \quad a_n = 2^{n-1} + 1$$

これから  $2ka_k = 2k(2^{k-1} + 1) = k2^k + 2k \quad \dots \textcircled{1}$

ここで、 $(k+1)2^{k+1} - k2^k = k2^k + 2^{k+1}$  より

$$k2^k = \{(k+1)2^{k+1} - k2^k\} - 2^{k+1} \quad \dots \textcircled{2}$$

①, ② より、 $2ka_k = \{(k+1)2^{k+1} - k2^k\} - 2^{k+1} + 2k$  であるから

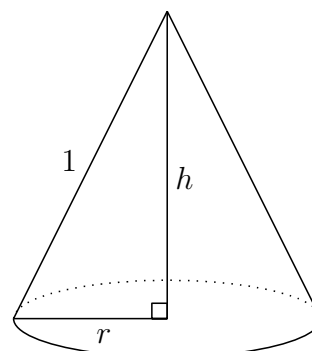
$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n 2ka_k &= \sum_{k=1}^n \{(k+1)2^{k+1} - k2^k\} - \sum_{k=1}^n 2^{k+1} + \sum_{k=1}^n 2k \\ &= (n+1)2^{n+1} - 2 - \frac{4(2^n - 1)}{2 - 1} + n(n+1) \\ &= (n-1)2^{n+1} + n^2 + n + 2 \end{aligned}$$

(4) 円錐の底面の半径を  $r$  とすると

$$r^2 = 1 - h^2 \quad (0 < h < 1)$$

したがって

$$\begin{aligned} V(h) &= \frac{\pi}{3} r^2 h = \frac{\pi}{3} (1 - h^2) h \\ &= \frac{\pi}{3} (h - h^3) \end{aligned}$$



$$V(h) \text{ を微分すると } V'(h) = \frac{\pi}{3} (1 - 3h^2)$$

これから  $V(h)$  の増減表は

$h$	(0)	...	$\frac{1}{\sqrt{3}}$	...	(1)
$V'(h)$		+	0	-	
$V(h)$		↗	極大	↘	

$$\text{よって } h = \frac{1}{\sqrt{3}} \text{ のとき, 最大値 } V\left(\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = \frac{2\sqrt{3}}{27}\pi$$

**2** (1)  $\vec{OP} = t\vec{OA} = t(1, 2, 3)$ ,  $\vec{OB} = (1, 1, -1)$ ,  $\vec{OC} = (7, 3, 5)$  より

$$\vec{BP} = \vec{OP} - \vec{OB} = (t-1, 2t-1, 3t+1),$$

$$\vec{CP} = \vec{OP} - \vec{OC} = (t-7, 2t-3, 3t-5)$$

したがって

$$\begin{aligned} BP^2 + CP^2 &= |\vec{BP}|^2 + |\vec{CP}|^2 \\ &= (t-1)^2 + (2t-1)^2 + (3t+1)^2 \\ &\quad + (t-7)^2 + (2t-3)^2 + (3t-5)^2 \\ &= 28t^2 - 56t + 86 \end{aligned}$$

(2) (1) の結果から  $BP^2 + CP^2 = 28(t-1)^2 + 58$

よって  $t=1$ , すなわち,  $\mathbf{P(1, 2, 3)}$  のとき, 最小値 **58** をとる.

$$(3) \vec{OH} = \frac{\vec{OB} \cdot \vec{OA}}{|\vec{OA}|^2} \vec{OA}, \quad \vec{OK} = \frac{\vec{OC} \cdot \vec{OA}}{|\vec{OA}|^2} \vec{OA} \text{ であるから } ^1$$

$$|\vec{OA}|^2 = 14, \quad \vec{OB} \cdot \vec{OA} = 0, \quad \vec{OC} \cdot \vec{OA} = 28$$

$$\text{ゆえに } \vec{OH} = \vec{0}, \quad \vec{OK} = 2\vec{OA} = 2(1, 2, 3)$$

$$\text{よって } \mathbf{H}(0, 0, 0), \mathbf{K}(2, 4, 6)$$

$$\text{また } \vec{HB} = \vec{OB} = (1, 1, -1), \quad \vec{KC} = \vec{OC} - \vec{OK} = (5, -1, -1)$$

したがって、 $\vec{HB}$ ,  $\vec{KC}$  のなす角  $\theta$  は

$$\cos \theta = \frac{\vec{HB} \cdot \vec{KC}}{|\vec{HB}| |\vec{KC}|} = \frac{1 \cdot 5 + 1 \cdot (-1) + (-1) \cdot (-1)}{\sqrt{3} \cdot 3\sqrt{3}} = \frac{5}{9}$$

(4)  $BP + CP$  の値が最小となるとき、 $\triangle BPH \sim \triangle CPK$  であるから

$$|\vec{HB}| : |\vec{KC}| = \sqrt{3} : 3\sqrt{3} = 1 : 3 \quad \text{ゆえに } HP : PK = 1 : 3$$

$$\vec{OP} = \frac{1}{1+3} \vec{OK} = \frac{1}{4} \cdot 2\vec{OA} = \frac{1}{2} \vec{OA} \text{ であるから } \mathbf{P} \left( \frac{1}{2}, 1, \frac{3}{2} \right)$$

$$\begin{aligned} BP^2 &= OB^2 + OP^2 = OB^2 + \left( \frac{1}{2} OA \right)^2 \\ &= 3 + \frac{1}{4} \cdot 14 = \frac{26}{4} \quad \text{ゆえに } BP = \frac{\sqrt{26}}{2} \end{aligned}$$

$$CP = 3BP \text{ であるから } BP + CP = 4BP = 4 \cdot \frac{\sqrt{26}}{2} = 2\sqrt{26} \quad \blacksquare$$

**3** (1)  $(a^{\frac{1}{2}} + a^{-\frac{1}{2}})^2 = a + a^{-1} + 2 = 18 + 2 = 20$

$$a^{\frac{1}{2}} + a^{-\frac{1}{2}} > 0 \text{ であるから } a^{\frac{1}{2}} + a^{-\frac{1}{2}} = 2\sqrt{5}$$

$$(a^{\frac{1}{3}} + a^{-\frac{1}{3}})^3 - 3(a^{\frac{1}{3}} + a^{-\frac{1}{3}}) = a + a^{-1} = 18 \text{ より, } x = a^{\frac{1}{3}} + a^{-\frac{1}{3}} \text{ とおくと}$$

$$x^3 - 3x = 18 \quad \text{ゆえに } (x-3)(x^2 + 3x + 6) = 0$$

$$x > 0 \text{ であるから } x = 3 \quad \text{よって } a^{\frac{1}{3}} + a^{-\frac{1}{3}} = 3$$

<sup>1</sup>[http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai\\_ri.2017.pdf](http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_ri.2017.pdf) (p.5 の補足を参照)



$$(2) \quad (*) \quad \log_{\frac{1}{3}}(9x^2) \cdot \log_3 \left( \frac{x}{81} \right) = -12$$

真数は正であるから

$$9x^2 > 0 \quad \text{かつ} \quad \frac{x}{81} > 0 \quad \text{すなわち} \quad x > 0 \quad \dots \textcircled{1}$$

$$(*) \text{ を変形すると } -(2\log_3 x + 2)(\log_3 x - 4) = -12$$

$$(\log_3 x)^2 - 3\log_3 x - 10 = 0 \quad \text{ゆえに} \quad (\log_3 x + 2)(\log_3 x - 5) = 0$$

$$\text{したがって} \quad \log_3 x = -2, 5 \quad \textcircled{1} \text{ に注意して} \quad \mathbf{x = \frac{1}{9}, 243}$$

$$(3) \quad \text{不等式 } \cos 2\theta + \sqrt{3}\sin 2\theta \geq 1 \quad (0 \leq \theta < 2\pi) \text{ より}$$

$$\sin \left( 2\theta + \frac{\pi}{6} \right) \geq \frac{1}{2}, \quad \frac{\pi}{6} \leq 2\theta + \frac{\pi}{6} < 4\pi + \frac{\pi}{6}$$

$$\text{したがって} \quad \frac{\pi}{6} \leq 2\theta + \frac{\pi}{6} \leq \frac{5\pi}{6}, \quad 2\pi + \frac{\pi}{6} \leq 2\theta + \frac{\pi}{6} \leq 2\pi + \frac{5\pi}{6}$$

$$\text{よって} \quad \mathbf{0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{3}, \quad \pi \leq \theta \leq \frac{4\pi}{3}}$$

$$(4) \quad z^4 = -8 - 8\sqrt{3}i = 16 \left( -\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) = 2^4 \left( \cos \frac{4\pi}{3} + i \sin \frac{4\pi}{3} \right)$$

$$|z| = 2, \quad 4 \arg z = \frac{4\pi}{3} + 2k\pi \quad \text{ゆえに} \quad \arg z = \frac{\pi}{3} + \frac{k}{2}\pi$$

$$0 \leq \arg z < 2\pi \text{ であるから} \quad k = 0, 1, 2, 3$$

$$\text{したがって} \quad |z| = 2, \quad \arg z = \frac{\pi}{3}, \frac{5\pi}{6}, \frac{4\pi}{3}, \frac{11\pi}{6}$$

$$\text{よって} \quad \mathbf{z = 1 + \sqrt{3}i, \quad -\sqrt{3} + i, \quad -1 - \sqrt{3}i, \quad \sqrt{3} - i} \quad \blacksquare$$

4 (1) 漸化式から

$$a_1 = \int_0^1 f_1(t) dt = \int_0^1 3t^2 dt = \left[ t^3 \right]_0^1 = 1$$

$$a_2 = \int_0^1 f_2(t) dt = \int_0^1 (3t^2 + 4t) dt = \left[ t^3 + 2t^2 \right]_0^1 = 3$$

(2) (\*)  $f_{n+2}(x) = 3x^2 + 4a_{n+1}x - a_n$  であるから

$$\begin{aligned} a_{n+2} &= \int_0^1 f_{n+2}(t) dt = \int_0^1 (3t^2 + 4a_{n+1}t - a_n) dt \\ &= \left[ t^3 + 2a_{n+1}t^2 - a_n t \right]_0^1 \\ &= 1 + 2a_{n+1} - a_n \end{aligned}$$

(3) (2) の結果から  $a_{n+2} - a_{n+1} = a_{n+1} - a_n + 1$  ゆえに  $b_{n+1} = b_n + 1$   
 $\{b_n\}$  は初項  $b_1 = a_2 - a_1 = 3 - 1 = 2$ , 公差 1 の等差数列であるから

$$b_n = 2 + 1(n - 1) = n + 1$$

$a_{n+1} - a_n = n + 1$  であるから,  $n \geq 2$  のとき

$$\sum_{k=1}^{n-1} (a_{k+1} - a_k) = \sum_{k=1}^{n-1} (k + 1)$$

ゆえに  $a_n - 1 = \frac{1}{2}(n-1)(n+2)$  整理すると  $a_n = \frac{1}{2}n(n+1)$

これは,  $n = 1$  のときも成立するから  $a_n = \frac{1}{2}n(n+1)$

$n \geq 3$  のとき, これを (\*) に代入すると

$$f_n(x) = 3x^2 + 2(n-1)nx - \frac{1}{2}(n-2)(n-1)$$

上式は,  $n = 1, 2$  のときも成立するから

$$f_n(x) = 3x^2 + 2(n-1)nx - \frac{1}{2}(n-2)(n-1)$$

(4) (3) の結果から

$$\begin{aligned}
 (**) \quad f_{n+1}(x) - f_n(x) &= 2\{n(n+1) - (n-1)n\}x \\
 &\quad - \frac{1}{2}\{(n-1)n - (n-2)(n-1)\} \\
 &= 4nx - (n-1) \\
 &= n(4x-1) + 1
 \end{aligned}$$

$x = \frac{1}{4}$  のとき, すべての自然数  $n$  に対して, 上式は 1 であるから

$$\alpha = \frac{1}{4}, \quad \beta = 1$$

$g_n(x) = f_{n+1}(x) - f_n(x)$  とおくと, (\*\*) より,  $g_n(x)$  は 1 次関数であり,  $g_n(x) = 0$  の解を  $\gamma$  とすると

$$\gamma = \frac{1}{4} - \frac{1}{4n} = \alpha - \frac{1}{4n} \quad \text{ゆえに} \quad \alpha - \gamma = \frac{1}{4n}$$

$$g_n(\alpha) = 1 \quad \text{より} \quad S_n = \frac{1}{2}(\alpha - \gamma)g_n(\alpha) = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{4n} \cdot 1 = \frac{1}{8n}$$

補足  $g_n(\alpha) \geq 0, g_n(\gamma) \geq 0$  のとき  $S_n = \frac{1}{2}|\alpha - \gamma|\{g_n(\alpha) + g_n(\gamma)\}$  ■

5 (1)  $C: y = e^x$  を微分すると  $y' = e^x$

$C$  上の点  $P(t, e^t)$  における接線  $l$  は

$$y - e^t = e^t(x - t)$$

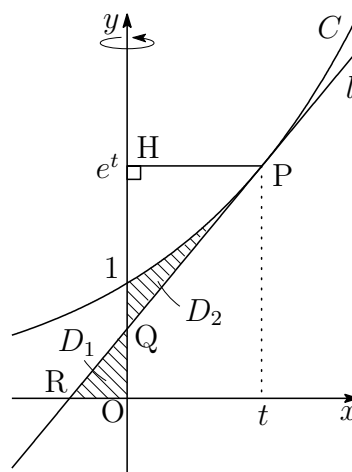
すなわち  $y = e^t(x - t + 1)$

$x = 0$  のとき,  $y = e^t(1 - t)$  であるから

$$Q(0, e^t(1 - t))$$

$y = 0$  のとき,  $x = t - 1$  であるから

$$R(t - 1, 0)$$



(2) 部分積分法により

$$\begin{aligned} \int \log x \, dx &= \int (x)' \log x \, dx = x \log x - \int dx \\ &= x(\log x - 1) + C_1 \quad (C_1 \text{は積分定数}), \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \int (\log x)^2 \, dx &= \int (x)' (\log x)^2 \, dx = x(\log x)^2 - 2 \int \log x \, dx \\ &= x(\log x)^2 - 2x(\log x - 1) + C_2 \\ &= x\{(\log x)^2 - 2 \log x + 2\} + C_2 \quad (C_2 \text{は積分定数}) \end{aligned}$$

別解  $t = \log x$  とおくと,  $x = e^t$ ,  $\frac{dx}{dt} = e^t$  であるから

$$\begin{aligned} \int \log x \, dx &= \int e^t t \, dt = e^t \{t - (t)'\} + C_1 \\ &= e^t(t - 1) + C_1 \\ &= x(\log x - 1) + C_1, \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \int (\log x)^2 \, dx &= \int e^t t^2 \, dt = e^t \{t^2 - (t^2)' + (t^2)''\} + C_2 \\ &= e^t(t^2 - 2t + 2) + C_2 \\ &= x\{(\log x)^2 - 2 \log x + 2\} + C_2 \end{aligned}$$

ここでは, 次の積分公式を利用している<sup>2</sup>.

$$\begin{aligned} \int e^{px} f(x) \, dx &= \frac{e^{px}}{p} \left\{ f(x) - \frac{f'(x)}{p} + \frac{f''(x)}{p^2} - \frac{f'''(x)}{p^3} + \dots \right\} + C \\ \int e^x f(x) \, dx &= e^x \{f(x) - f'(x) + f''(x) - f'''(x) + \dots\} + C \end{aligned}$$

<sup>2</sup>[http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai\\_math-2015-kouki.pdf](http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_math-2015-kouki.pdf) (p.7 を参照)

(3)  $V_1(t)$ ,  $V_2(t)$  の体積は, 前ページの図から ( $C: x = \log y$ )

$$\begin{aligned} V_1(t) &= \frac{1}{3}\pi OR^2 \cdot OQ \\ &= \frac{\pi}{3}(1-t)^2 \cdot e^t(1-t) = \frac{\pi}{3}e^t(1-t)^3, \\ V_2(t) &= \frac{1}{3}\pi PH^2 \cdot QH - \pi \int_1^{e^t} (\log y)^2 dy \\ &= \frac{\pi}{3}t^2 \cdot \{e^t - e^t(1-t)\} - \pi \left[ y\{(\log y)^2 - 2\log y + 2\} \right]_1^{e^t} \\ &= \frac{\pi}{3}e^t t^3 - \pi\{e^t(t^2 - 2t + 2) - 2\} \\ &= \pi \left\{ e^t \left( \frac{t^3}{3} - t^2 + 2t - 2 \right) + 2 \right\} \end{aligned}$$

別解 バウムクーヘン型の求積法を用いると<sup>3</sup>,  $D_2$  を  $y$  軸の周りに 1 回転させてできる立体の体積  $V_2(t)$  は,  $C: y = e^x$ ,  $l: y = e^t x + (1-t)e^t$  より

$$\begin{aligned} \frac{V_2(t)}{2\pi} &= \int_0^t x\{e^x - e^t x - (1-t)e^t\} dx \\ &= \left[ e^x(x-1) - \frac{1}{3}e^t x^3 - \frac{1}{2}(1-t)e^t x^2 \right]_0^t \\ &= e^t \left( \frac{t^3}{6} - \frac{t^2}{2} + t - 1 \right) + 1 \end{aligned}$$

(4) (3) の結果から

$$\begin{aligned} V(t) &= V_1(t) + V_2(t) = \frac{\pi}{3}e^t(1-t)^3 + \pi \left\{ e^t \left( \frac{t^3}{3} - t^2 + 2t - 2 \right) + 2 \right\} \\ &= \pi \left\{ e^t \left( t - \frac{5}{3} \right) + 2 \right\}, \\ V'(t) &= e^t \left( t - \frac{2}{3} \right) \end{aligned}$$

$0 < t < 1$  における  $V(t)$  の増減表は

$t$	(0)	...	$\frac{2}{3}$	...	1
$V'(t)$		-	0	+	
$V(t)$		$\searrow$	極小	$\nearrow$	

よって,  $V(t)$  は  $t = \frac{2}{3}$  のとき, 最小値  $V\left(\frac{2}{3}\right) = \pi(2 - e^{\frac{2}{3}})$  をとる. ■

<sup>3</sup><http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/kumadai.i.2016.pdf> [2]

- 6 (1)  $C: \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$  の両辺を  $x$  で微分すると ( $y \neq 0$ )

$$\frac{2x}{a^2} + \frac{2yy'}{b^2} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad y' = -\frac{b^2x}{a^2y}$$

$C$  上の点  $P(a \cos \alpha, b \sin \alpha)$  における接線の傾きは、 $b \sin \alpha \neq 0$  に注意して

$$y' = -\frac{b^2 \cdot a \cos \alpha}{a^2 \cdot b \sin \alpha} = -\frac{b \cos \alpha}{a \sin \alpha}$$

したがって、 $C$  上の点  $P$  における接線  $l$  の方程式は

$$y - b \sin \alpha = -\frac{b \cos \alpha}{a \sin \alpha} (x - a \cos \alpha)$$

両辺に  $\frac{\sin \alpha}{b}$  を掛けると  $\frac{\sin \alpha}{b} (y - b \sin \alpha) = -\frac{\cos \alpha}{a} (x - a \cos \alpha)$

整理すると  $\frac{\cos \alpha}{a} x + \frac{\sin \alpha}{b} y = 1$

- (2) (1) で示した接線の  $x$  切片、 $y$  切片がそれぞれ、 $\frac{a}{\cos \alpha}$ 、 $\frac{b}{\sin \alpha}$  であるから

$$S = \frac{1}{2} \cdot \frac{a}{\cos \alpha} \cdot \frac{b}{\sin \alpha} = \frac{ab}{\sin 2\alpha} \geq ab \quad \left(0 < \alpha < \frac{\pi}{2}\right)$$

$\alpha = \frac{\pi}{4}$  で  $S$  は最小値  $ab$  をとる。  $Q\left(\frac{a}{\sqrt{2}}, \frac{b}{\sqrt{2}}\right)$ ,  $l: \frac{x}{\sqrt{2}a} + \frac{y}{\sqrt{2}b} = 1$

- (3)  $C$  上の点  $R(a \cos \beta, b \sin \beta)$  ( $\frac{\pi}{2} < \beta < \pi$ ) における接線  $m$  は

$$\frac{\cos \beta}{a} x + \frac{\sin \beta}{b} y = 1$$

2直線  $l$ ,  $m$  の法線ベクトルは、それぞれ  $\left(\frac{1}{\sqrt{2}a}, \frac{1}{\sqrt{2}b}\right)$ ,  $\left(\frac{\cos \beta}{a}, \frac{\sin \beta}{b}\right)$  であり、これらは垂直であるから

$$\frac{\cos \beta}{\sqrt{2}a^2} + \frac{\sin \beta}{\sqrt{2}b^2} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad \tan \beta = -\frac{b^2}{a^2}$$

このとき  $\frac{1}{\cos^2 \beta} = 1 + \tan^2 \beta = \frac{a^4 + b^4}{a^4}$ ,  $\frac{1}{\sin^2 \beta} = 1 + \frac{1}{\tan^2 \beta} = \frac{a^4 + b^4}{b^4}$

$\frac{\pi}{2} < \beta < \pi$  より、 $\cos \beta = -\frac{a^2}{\sqrt{a^4 + b^4}}$ ,  $\sin \beta = \frac{b^2}{\sqrt{a^4 + b^4}}$  であるから

$$R\left(-\frac{a^3}{\sqrt{a^4 + b^4}}, \frac{b^3}{\sqrt{a^4 + b^4}}\right)$$

(4) (2) の結果から,  $l$  の方程式は

$$l : bx + ay = \sqrt{2ab}$$

また, (3) の結果から,  $m$  の方程式は

$$m : -ax + by = \sqrt{a^4 + b^4}$$

これらの2式から,  $l$  と  $m$  の交点  $A(x, y)$  について

$$\begin{aligned} (bx + ay)^2 + (-ax + by)^2 &= (\sqrt{2ab})^2 + (\sqrt{a^4 + b^4})^2 \\ (a^2 + b^2)(x^2 + y^2) &= (a^2 + b^2)^2 \\ x^2 + y^2 &= a^2 + b^2 \\ \mathbf{OA^2} &= \mathbf{a^2 + b^2} \end{aligned}$$

また, (2), (3) の結果から

$$\mathbf{OQ^2} = \frac{a^2 + b^2}{2}, \quad \mathbf{OR^2} = \frac{a^6 + b^6}{a^4 + b^4}$$

以上の結果から

$$\begin{aligned} \mathbf{OA^2} - \mathbf{OR^2} &= a^2 + b^2 - \frac{a^6 + b^6}{a^4 + b^4} = \frac{a^2b^2(a^2 + b^2)}{a^6 + b^6} > 0, \\ \mathbf{OR^2} - \mathbf{OQ^2} &= \frac{a^6 + b^6}{a^4 + b^4} - \frac{a^2 + b^2}{2} = \frac{(a^2 + b^2)(a^2 - b^2)^2}{2(a^4 + b^4)} > 0 \end{aligned}$$

したがって  $\mathbf{OA^2} > \mathbf{OR^2} > \mathbf{OQ^2}$  よって  $\mathbf{OA} > \mathbf{OR} > \mathbf{OQ}$  ■

7 (1)  $I_n = \int_1^e (\log x)^n dx$  より ( $n$  は自然数)

$$\begin{aligned} I_1 &= \int_1^e \log x dx = \left[ x(\log x - 1) \right]_1^e = \mathbf{1}, \\ I_2 &= \int_1^e (\log x)^2 dx = \left[ x\{(\log x)^2 - 2\log x + 2\} \right]_1^e = \mathbf{e} - \mathbf{2}, \\ I_{n+1} &= \int_1^e (x)'(\log x)^{n+1} dx \\ &= \left[ x(\log x)^{n+1} \right]_1^e - (n+1) \int_1^e (\log x)^n dx \\ &= \mathbf{e} - (\mathbf{n} + \mathbf{1})\mathbf{I}_n \end{aligned}$$

(2)  $a + be = 0$  について ( $a, b$  は有理数),  $b \neq 0$  とすると

$$e = -\frac{a}{b}$$

上式の左辺は無理数, 右辺は有理数であるから, 不合理.

$b = 0$  であるから, これを  $a + be = 0$  に代入すると  $a = 0$

よって,  $a + be = 0$  ならば ( $a, b$  は有理数),  $a = 0$  かつ  $b = 0$

(3) (\*)  $I_n = A_n + B_n e$  ( $A_n, B_n$  は有理数)

[1]  $n = 1$  のとき,  $I_1 = 1 + 0 \cdot e$  より, (\*) は成立する.

[2]  $n = k$  のとき, (\*) が成立する, すなわち,

$$I_k = A_k + B_k e \quad (A_k, B_k \text{ は有理数})$$

であると仮定すると, (1) で示した漸化式により

$$\begin{aligned} I_{k+1} &= e - (k+1)I_k = e - (k+1)(A_k + B_k e) \\ &= -(k+1)A_k + \{1 - (k+1)B_k\}e \end{aligned}$$

これから

$$A_{k+1} = -(k+1)A_k, \quad B_{k+1} = 1 - (k+1)B_k \quad (**)$$

とおくと,  $A_{k+1}, B_{k+1}$  は有理数であるから,  $n = k+1$  のときも (\*) は成立する.

[1], [2] により, すべての自然数  $n$  について, (\*) は成立する.



(4) (\*\*) の第 1 式の両辺を  $(-1)^{k+1}(k+1)!$  で割ると

$$\frac{A_{k+1}}{(-1)^k(k+1)!} = \frac{A_k}{(-1)^k k!} \quad \text{ゆえに} \quad \frac{A_n}{(-1)^n n!} = \frac{A_1}{(-1)^1 1!}$$

$$A_1 = 1 \text{ であるから } A_n = (-1)^{n+1} n! \quad \text{また} \quad C_n = \frac{A_n}{(-1)^{n+1} n!} = 1$$

$$(5) \text{ (#)} \quad B_n = 1 + \sum_{i=1}^n (-1)^i {}_n P_i$$

[1]  $n = 1$  のとき,  $I_1 = 1 + 0 \cdot e$  より,  $B_1 = 0$

$$\text{(#)} \text{ より } B_1 = 1 + \sum_{i=1}^1 (-1)^i {}_1 P_i = 1 + (-1) = 0$$

よって,  $n = 1$  のとき, (#) は成立する.

[2]  $n = k$  のとき, (#) が成立する, すなわち

$$B_k = 1 + \sum_{i=1}^k (-1)^i {}_k P_i$$

が成り立つと仮定すると, (\*\*) の第 2 式から

$$\begin{aligned} B_{k+1} &= 1 - (k+1)B_k \\ &= 1 - (k+1) \left\{ 1 + \sum_{i=1}^k (-1)^i {}_k P_i \right\} \\ &= 1 + (-1)^1 {}_{k+1} P_1 + \sum_{i=1}^k (-1)^{i+1} {}_{k+1} P_{i+1} \\ &= 1 + (-1)^1 {}_{k+1} P_1 + \sum_{i=2}^{k+1} (-1)^i {}_{k+1} P_i = 1 + \sum_{i=1}^{k+1} (-1)^i {}_{k+1} P_i \end{aligned}$$

よって,  $n = k+1$  のときも (#) は成立する.

[1], [2] より, すべての自然数  $n$  について, (#) は成立する.

(4) および上の結果を用いて

$$\begin{aligned} I_5 &= A_5 + B_5 e = (-1)^6 5! + \left\{ 1 + \sum_{i=1}^5 (-1)^i {}_5 P_i \right\} e \\ &= 120 + (1 - 5 + 20 - 60 + 120 - 120)e \\ &= 120 - 44e \end{aligned}$$

補足  $I_1 = 1$ ,  $I_{n+1} = e - (n+1)I_n$  より

$$\frac{(-1)^{n+1}}{(n+1)!}I_{n+1} - \frac{(-1)^n}{n!}I_n = \frac{(-1)^{n+1}e}{(n+1)!}$$

したがって,  $n \geq 2$  のとき

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{n-1} \left\{ \frac{(-1)^{k+1}}{(k+1)!}I_{k+1} - \frac{(-1)^k}{k!}I_k \right\} &= \sum_{k=1}^{n-1} \frac{(-1)^{k+1}e}{(k+1)!} \\ \frac{(-1)^n}{n!}I_n + 1 &= \sum_{k=2}^n \frac{(-1)^k e}{k!} \end{aligned}$$

$$\sum_{k=2}^n \frac{(-1)^k e}{k!} = \sum_{k=0}^n \frac{(-1)^k e}{k!} \text{ であるから}$$

$$\begin{aligned} I_n &= (-1)^{n+1}n! + (-1)^n n! \sum_{k=0}^n \frac{(-1)^k e}{k!} \\ &= (-1)^{n+1}n! + e \sum_{k=0}^n \frac{(-1)^{n-k} n!}{k!} \\ &= (-1)^{n+1}n! + e \sum_{k=0}^n \frac{(-1)^k n!}{(n-k)!} = (-1)^{n+1}n! + e \sum_{k=0}^n (-1)^k {}_n P_k \end{aligned}$$

上式は,  $n = 1$  のときも成立する. よって

$$A_n = (-1)^{n+1}n!, \quad B_n = \sum_{k=0}^n (-1)^k {}_n P_k = 1 + \sum_{k=1}^n (-1)^k {}_n P_k$$

また,  $t = \log x$  とおくと,  $x = e^t$ ,  $\frac{dx}{dt} = e^t$  であるから (p.12 参照)

$$\begin{aligned} I_n &= \int_1^e (\log x)^n dx = \int_0^1 e^t t^n dt = \left[ e^t \sum_{k=0}^n (-1)^k (t^n)^{(k)} \right]_0^1 \\ &= \left[ e^t \sum_{k=0}^{n-1} (-1)^k {}_n P_k t^{n-k} + e^t (-1)^n n! \right]_0^1 \\ &= e \sum_{k=0}^n (-1)^k {}_n P_k + (-1)^{n+1}n! \end{aligned}$$



- 8 (1)  $q_1$  は、1回目に裏が出る確率であるから  $q_1 = 1 - p$   
操作により、次の確率漸化式が成立する.

$$q_{n+1} = (1-p)q_n + p(1-q_n) \quad \text{すなわち} \quad q_{n+1} = (1-2p)q_n + p \quad (*)$$

これを变形すると

$$q_{n+1} - \frac{1}{2} = (1-2p) \left( q_n - \frac{1}{2} \right)$$

数列  $\left\{ q_n - \frac{1}{2} \right\}$  は初項  $q_1 - \frac{1}{2} = \frac{1}{2}(1-2p)$ , 公比  $1-2p$  の等比数列より

$$q_n - \frac{1}{2} = \frac{1}{2}(1-2p) \cdot (1-2p)^{n-1} \quad \text{よって} \quad q_n = \frac{1}{2} \{ 1 + (1-2p)^n \} \quad (**)$$

$n = 2, 3$  を (\*\*) に代入すると

$$q_2 = 1 - 2p + 2p^2, \quad q_3 = 1 - 3p + 6p^2 - 4p^3$$

(2) (\*) より  $q_{n+1} = (1-2p)q_n + p$

(3) (\*\*) より  $q_n = \frac{1}{2} \{ 1 + (1-2p)^n \}$

(4)

$X_n$	1	-1	合計
$P(X_n)$	$q_n$	$1 - q_n$	1

$$E(X_n) = 1q_n + (-1)(1 - q_n) = 2q_n - 1 = (1 - 2p)^n$$

$$E(X_n^2) = 1^2q_n + (-1)^2(1 - q_n) = 1$$

したがって

$$V(X_n) = E(X_n^2) - E(X_n)^2 = 1 - (1 - 2p)^{2n}$$

$$\sigma(X_n) = \sqrt{V(X_n)} = \sqrt{1 - (1 - 2p)^{2n}}$$

